



京都市立白河総合支援学校

令和7年2月吉日

令和6年度後期学校評価アンケートについて

令和6年度 後期学評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

令和6年12月に実施した後期学校評価アンケートの結果と分析をお知らせします。結果を今後の教育活動に生かしてまいります。

◇実施期間 令和6年12月2日～12月13日




◇対象者 白河総合支援学校生徒・保護者・教職員

◇方法

- ・アンケートフォーム (Forms) およびアンケート用紙にて回答
- ・各項目の「適合度」を4段階で評価
- ・「そう思う」「大体そう思う」を「肯定的回答」とし、「あまりそう思わない」「そう思わない」を「否定的回答」として分析

◇回答率 生徒 96% (94/98) 保護者 82% (80/98) 教職員 100% (45/45)

◇分析結果

- ・百分率で数値を表記
- ・【確かな学力】【豊かな心】【健やかな体】【独自の項目】について、項目別に対象者別の回答を比較分析
- ・【服務】については、教職員のための項目として分析
- ・肯定的回答85%以下の項目は  で表示
- ・前期または昨年度後期との比較で、肯定的回答が5%以上の向上が見られた項目は  、
肯定的回答が5%以上の低下が見られた項目は  で表示

【確かな学力】

この項目では、生徒が自分の目標を理解し、その目標に向かって学習に取り組めているか、また、達成度について評価できているか、目標に近づく姿が見られるかについて尋ねています。

分野		教職員	肯定的 回答	前期比	前年度 後期比	否定的 回答	前期比	前年度 後期比	保護者	肯定的 回答	前期比	前年度 後期比	否定的 回答	前期比	前年度 後期比	生徒	肯定的 回答	前期比	前年度 後期比	否定的 回答	前期比	前年度 後期比
確かな 学力	1	個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導や支援を行なっている	100%	0%	0%	0%	0%	0%	子どもの目標や学習計画に基づく計画的な指導や支援がされている	100%	2%	4%	0%	-2%	-4%	先生は「何のために勉強するか」をわかりやすく教えてくれる	93%	2%	3%	7%	-2%	-3%
	2	生徒や保護者に短期目標と評価、実習の目標と評価を伝えている	100%	2%	2%	0%	-2%	-2%	短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	100%	3%	1%	0%	-3%	-1%	今、現在の自分の目標がわかっている	91%	3%	2%	9%	-3%	-2%
	3	生徒が自己目標に一生懸命に取り組める活動を用意している	100%	2%	2%	0%	-2%	-2%	子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	94%	1%	-2%	6%	-1%	2%	目標に向かって学習に取り組んでいる	93%	6%	0%	7%	-6%	0%
	4	生徒は満足感や達成感をもち、専門科（地域協働）の学習に取り組んでいる	100%	4%	2%	0%	-4%	-2%	子どもは専門科（地域協働）の授業に満足感や達成感を感じている	94%	2%	4%	6%	-2%	-4%	専門科（地域協働）の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	93%	6%	3%	7%	-6%	-3%
	5	生徒は満足感や達成感を持ち、教科の学習に取り組んでいる	98%	2%	0%	2%	-2%	0%	子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている	86%	2%	3%	14%	-2%	-3%	教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	83%	6%	4%	17%	-6%	-4%
	6	生徒は満足感や達成感をもち、職場等実習に取り組んでいる	100%	0%	0%	0%	0%	0%	子どもは職場等の実習に満足感や達成感を感じている	96%	4%	7%	4%	-4%	-7%	職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある	94%	6%	0%	6%	-6%	0%
	7	生徒の働く意欲や働くために必要な姿勢や態度を育むことができている	98%	4%	0%	2%	-4%	0%	子どもに働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきた	94%	5%	4%	6%	-5%	-4%	一生懸命働くという気持ちや職場で必要な態度が身についている	94%	5%	2%	6%	-5%	-2%
	8	生徒の学習の結果や努力・達成度を評価し、授業改善・指導法の改善に活かしている	100%	4%	5%	0%	-4%	-5%	子どもの努力や達成度が評価されている	98%	4%	4%	3%	-4%	-4%	先生は、学習の成果（できるようになったこと等）を伝えてくれる	91%	-3%	-4%	9%	3%	4%

多数の質問項目において、肯定的回答が90%を超えています。保護者の『子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている』の質問項目が86%、生徒の『教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある』の質問項目が83%と、他の質問項目よりも肯定的回答がやや低い結果となっていますが、全体的にみると、前期、また、昨年度後期と比べて、肯定的な回答が高くなりました。この結果から、今後もより充実した学校生活が送れるよう、現在の取組を継続していきたいと思います。生徒が「できたこと」「頑張れたこと」など、自分の成果や成長に気づいて達成感や充実感が得られるよう、ねらいや課題を具体化し、生徒が自分自身の目標や課題を明確に理解して、「何のためにやるのか」という目的意識を持ちながら学習に取り組める学習環境づくりに重点を置いて取り組んでいきます。また、生活教育領域やスポーツ・芸術領域など、専門教科以外の教科の学習内容について、3年間の系統性や他の授業との関連性を整理し、目まぐるしく変化する時代の流れも的確に捉えつつ、より実生活に役立つ力を身につけることができるような授業づくりを進めていきます。生徒へ伝え方・提示の仕方・教材選択などを工夫することで、生徒が目的意識を持って主体的に学ぶ学習環境を整え、達成感や満足感を感じられる授業が展開できるよう引き続き尽力してまいります。

【豊かな心】

この項目では、自己肯定感や自己有用感にかかわる内容について尋ねています。

分野		教職員	肯定的 回答	前期比	前年度 後期比	否定的 回答	前期比	前年度 後期比	保護者	肯定的 回答	前期比	前年度 後期比	否定的 回答	前期比	前年度 後期比	生徒	肯定的 回答	前期比	前年度 後期比	否定的 回答	前期比	前年度 後期比
豊かな心	9	生徒の良いところや得意なところを伸ばすことを意識して指導している	100%	4%	2%	0%	-4%	-2%	子どもには良いところや得意なことがある	100%	1%	4%	0%	-1%	-4%	自分の好きなところや得意なことをよく知っている	89%	1%	6%	11%	-1%	-6%
	10	生徒の自己有用感を高めるため、「役に立ちたい」という思いを促すような活動を用意している	100%	7%	2%	0%	-7%	-2%	子どもには「誰かの役に立っている」と実感できる学習が準備されている	95%	2%	7%	5%	-2%	-7%	自分はだれかの役に立っていると思う	69%	10%	0%	31%	-10%	0%
	11	生徒の自己肯定感を高めるため、生徒の人權を尊重した言葉かけや指導・支援を行っている	100%	2%	2%	0%	-2%	-2%	教職員は子どもの生活年齢や発達段階に応じた適切な言葉かけや指導をしている	94%	2%	2%	6%	-2%	-2%	先生はわかりやすく丁寧な言葉づかいをしてくれ、自分のことをわかってくれる	90%	-1%	5%	10%	1%	-5%
	12	生徒が友達や仲間を大切に、お互い認め合いながら、協力し合えるよう指導や支援をしている	100%	4%	2%	0%	-4%	-2%	子どもは友達や仲間を大切に、お互い認め合いながら、協力している	95%	5%	5%	5%	-5%	-5%	友達や仲間を大切に、お互い認め合いながら、協力している	96%	9%	6%	4%	-9%	-6%
	13	生徒に自分から積極的に挨拶するよう指導や支援をしている	100%	2%	2%	0%	-2%	-2%	子どもは自分から積極的に挨拶している	81%	4%	-1%	19%	-4%	1%	自分から元気に挨拶ができる	81%	2%	7%	19%	-2%	-7%
	14	生徒に学校の決まりや約束を守って学校生活を送るよう指導・支援している	98%	0%	2%	2%	0%	-2%	子どもは学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	95%	3%	1%	5%	-3%	-1%	学校のきまりや約束を守っている	95%	5%	3%	5%	-5%	-3%
	15	生徒に家庭内で決まった役割を担うように促している	96%	9%	0%	4%	-9%	0%	子どもには家庭で決まった役割があり、実行している	88%	1%	2%	13%	-1%	-2%	家庭で決まった役割（例えば、お手伝い）があり、実行している	84%	5%	2%	16%	-5%	-2%
	16	全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている	98%	2%	0%	2%	-2%	0%														
	17	学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している	71%	0%	-6%	29%	0%	6%														
	18	生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している	98%	11%	0%	2%	-11%	0%														
	19	保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している	98%	9%	0%	2%	-9%	0%														

各質問項目において、おおむね肯定的回答が高くなっています。また、前期、また、昨年度後期と比べて、肯定的な回答が高くなった項目も多く見られます。生徒の『自分はだれかの役に立っていると思う』の質問項目の肯定的回答が69%と低い数値となっていますが、前期と比べて肯定的回答が10%増加しました。また、生徒の『家庭で決まった役割があり、実行している』の質問項目の肯定的回答は、84%となっていますが、こちらも前期と比べて肯定的回答が5%増えました。誰かの役に立っている、貢献している等、自分は有用だという感情である自己有用感を高めることは、自分自身を認め、自己肯定感を高めることに繋がります。生徒が自己有用感や自己肯定感を高め、自分自身に自信を持つことができるよう、これからも、生徒の思いに寄り添いながら、生徒自身が目標を決めたり、自ら役割を担ったりするなど、主体的かつ積極的に活動できる学習環境を作っていきます。そして、日頃からのコミュニケーションを大切に、行動や成果だけでなく、目標に対して努力した過程を共有し、結果に関わらず生徒自身の姿を認め、自分の成長に気付けるよう、評価や今後に向けてのアドバイスをわかりやすく伝えていきます。

保護者の『子どもは自分から積極的に挨拶している』、生徒の『自分から元気よく挨拶ができる』の質問項目がどちらも肯定的回答が81%とやや低い数値となっています。昨年度後期と比較すると、生徒の質問項目では肯定的回答が7%増えています。コミュニケーションの基本、コミュニケーションの入口と言われる挨拶の大切さを今後も繰り返し伝えながら、挨拶を交わすことの心地よさを感じることで、自然と挨拶をする習慣が身につくよう、日頃から挨拶を交わし合う環境を作っていきます。学校全体で挨拶を大切にする意識を高めていけるよう、『あいさつ週間』の取組など、生徒と教職員が一つになって取り組んでいきたいと思います。また、挨拶ができることは社会人に求められる大切な力の一つです。『タイミングがわからない』『緊張すると声がでない』など、挨拶を苦手とする理由は様々あると思います。苦手を克服するためには、タイミングや挨拶の種類をパターン化して覚えることが有効とされています。挨拶できるタイミングを決めて挨拶するなど、生徒の苦手意識に寄り添いながら、スモールステップで取り組んでことも大切にしていきます。

教職員の『学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している』の質問項目の肯定的回答が71%（前年度比－6%）となっています。今後も生徒が安心して学校生活を送れるよう、学校のいじめ対策委員会の組織を生徒に啓発していきます。また、生徒の変化や生徒からのSOSを即座に察知できるよう、生徒とのコミュニケーションを密にし、教職員が一丸となっていじめの防止に日々努めてまいります。

【健やかな体】

この項目では、健康に関することについて尋ねています。

分野		教職員	肯定的 回答	前期比	前年度 後期比	否定的 回答	前期比	前年度 後期比	保護者	肯定的 回答	前期比	前年度 後期比	否定的 回答	前期比	前年度 後期比	生徒	肯定的 回答	前期比	前年度 後期比	否定的 回答	前期比	前年度 後期比
健やかな体	20	生徒に適切な食生活を送れるように指導している	100%	16%	5%	0%	-16%	-5%	子どもは朝ごはんをきちんと食べている	83%	3%	1%	18%	-3%	-1%	朝ごはんをきちんと食べている	83%	5%	-1%	17%	-5%	1%
	21	生徒に衛生に関する指導・支援を行なっている	98%	7%	-2%	2%	-7%	2%	子どもは日常的に清潔しようと心がけている	91%	-2%	-6%	9%	2%	6%	清潔にすることを心掛けている(例えば、毎日の入浴や着替え、汗をこまめに拭くなど)	96%	1%	1%	4%	-1%	-1%
	22	性と生について、生徒が正しく理解し、適切な行動が取れるように指導・支援を行っている	98%	9%		2%	-9%		子どもは性と生の理解を深め、自分の身体を大切にしようとしている	84%	1%		16%	-1%		生と性について学習し、自分の身体を大切にしながら生活している	95%	1%		5%	-1%	
	23	休日等実施されている各種スポーツ、文化的催しに参加するように生徒に促している	91%	11%	3%	9%	-11%	-3%	子どもは休日にリフレッシュできる活動をしている	90%	1%	2%	10%	-1%	-2%	休日は趣味やスポーツ、サークル活動などに取り組んでいる	82%	10%	11%	18%	-10%	-11%

保護者の『子どもは朝ごはんをきちんと食べている』、生徒の『朝ごはんをきちんと食べている』の質問項目で肯定的回答が83%とやや低い数値を示していますが、どちらも前期と比べて若干肯定的回答が増えました。教職員の『生徒に適切な食生活を送れるよう指導している』の質問項目は、肯定的回答が前期と比べて16%増えました。朝ごはんは、栄養を補給し、脳や身体をしっかりと目覚めさせるスイッチを入れるだけでなく、質の高い睡眠をとることもつながります。朝ごはんを食べることで生活リズムが整い、夜になると睡眠ホルモンのメラトニンが分泌されて自然と眠りにつくことができるのです。睡眠中の脳は、昼間の経験や記憶を整理するといわれており、朝ごはんを食べて生活リズムを整えることは、身体にとってとても多くのメリットがあります。これからも、『家庭生活』の授業や外部講師を招いての講義などの授業場面だけでなく、毎朝行っている心と体のチェックシートの活用時など、様々な場面で働

く生活を送るためには一日のはじめの大事なスイッチである朝ごはんを食べて栄養を摂ることが大切であることを伝え、生徒自身が食事の大切さに気付けるように、適切な食生活の指導に努めてまいります。

生徒の『休日は趣味やスポーツ、サークル活動などに取り組んでいる』の質問項目の肯定的回答が82%とやや低い数値をとなっていますが、前期、また、昨年度後期と比べて10%以上、肯定的回答が高くなりました。将来働く生活を送る際に『仕事と生活の調和（ワークライフバランス）』を取ることがとても大切であり、『仕事』と『仕事以外の生活』の両方を充実させることで相互に良い効果を生み出すとされています。今後も、『仕事以外の生活』の充実も目指して、余暇の時間の過ごし方を考え、趣味の幅を広げたり、好きなことを見つけたり、自分なりの休日の過ごし方を見つけることができるよう取り組んでいきたいと思います。余暇を思う存分楽しむ時間が持てるようICTを活用して様々な情報に触れたり、自分の趣味嗜好に気付けるよう自己理解を進めたりするための学習機会を設けるとともに、様々なことにチャレンジする気持ちを育て、休日の過ごし方の幅が広がるよう、家庭と協力してサポートしていきたいと思います。

【独自の項目】

この項目では、企業との連携、地域との協働を図りながら進めている学習について、および、情報モラルに関することについて尋ねています。

分野		教職員	肯定的 回答	前期比	前年度 後期比	否定的 回答	前期比	前年度 後期比	保護者	肯定的 回答	前期比	前年度 後期比	否定的 回答	前期比	前年度 後期比	生徒	肯定的 回答	前期比	前年度 後期比	否定的 回答	前期比	前年度 後期比
独自の項目	24	企業との連携・協働による学習環境が設定できている	100%	0%	0%	0%	0%	0%	企業との連携・協働による学習環境が設定できている	96%	3%	8%	4%	-3%	-8%	企業の協力があり、職場実習などができていることに感謝している	98%	3%	2%	2%	-3%	-2%
	25	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	98%	-2%	-2%	2%	2%	2%	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	96%	7%	2%	4%	-7%	-8%	地域の協力があり、地域との活動ができていることに感謝している	95%	5%	5%	5%	-5%	-5%
	26	生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている	98%	-2%	0%	2%	2%	0%	保護者として、学校の教育の趣旨や目的を理解している	96%	1%	9%	4%	-1%	-2%	地域や企業等、学校外で学ぶ経験をすることで、校内でもより一生涯懸命に学習することができる	97%	5%	5%	3%	-5%	-5%
	27	情報モラルについての指導を積極的に行なっている	93%	-2%	-2%	7%	2%	2%	子どもはルールやマナーを守って情報機器やSNSを使用している	89%	-2%	3%	11%	2%	-2%	決まりやルール、マナーを守って情報機器（スマートフォンやタブレット）やSNSを使用している	96%	3%	2%	4%	-3%	-2%

各質問項目において、肯定的回答がほぼ90%台の高い数値となっています。今後も引き続き、企業や地域と連携し、幅広い学びの場を設定し、様々な場所、人、ものとのかわりの中で、生徒がいきいきと学習できるよう、学びの環境をデザインしていきたいと思います。企業や地域での活動の中で、様々な経験を通して多くの人と関わることでなりたい自分を想像し、様々な場面で第三者から評価を受けることで自己理解を深め、将来に向けての目標を持つことで、やりがいや使命感を持って活動する姿に繋がっていきたいと考えます。

【服務の項目】

この項目は、教職員のための項目です。働き方に関することについて尋ねています。

分野		教職員	肯定的 回答	前期比	前年度 後期比	否定的 回答	前期比	前年度 後期比
服 務	28	報告・連絡・相談を意識して行い、情報の共有に努めている	98%	2%	2%	2%	-2%	-2%
	29	業務や会議の精選を図ることにより、勤務時間の縮減を図っている	93%	0%	3%	7%	0%	-3%
	30	職務の効率的な遂行を心掛けている	100%	2%	2%	0%	-2%	-2%

すべての項目で、肯定的回答が前期または昨年度後期と比べて高くなりました。継続してきた働き方改革の取組の成果であると考えます。今後も引き続き、業務内容の見直し、会議の精選など、効率的な職務の遂行を目指してまいります。同時に、教職員一人ひとりが“働きがい”を実感し、持続的な成長を果たせる環境を目指し、“働きがい改革”を進めていきたいと思います。『仕事と生活の調和（ワークライフバランス）』を取りながら、教職員が生き生きと働く姿は、生徒の身近な社会人のモデルとなり、将来、社会人として社会に出ていく生徒の不安を期待や希望に変えることに繋がると考えます。そのためにも、今後も“働きやすさ”と“やりがい”を向上していけるよう、課題や改善点を見極めながら“働きがい改革”の取組を進め、教職員の日々の生活や教職人生をウィルビーイングなもの（身体的・精神的・社会的に満たされた状態）になることを目指していきます。